

## アジア復調の鍵は企業の活性化

【マニラ、2009年8月26日】アジア開発銀行(ADB)は26日、「[キー・インディケーター2009年版](#)」(Key Indicators 2009)を発表し、その中で、アジアの中小企業が発展・成長することが経済構造を内需依存型に転換していく上で重要との指摘を盛り込んだ。

KIは域内各国の統計指標を集めたADBの代表的刊行物の一つで、2009年版では特別テーマとして中小企業の活性化を取り上げ(「Enterprises in Asia: Fostering Dynamism in SMEs」)、労働者とその雇用主である中小企業が今般の世界経済危機によって受ける影響を分析するとともに、危機収束後、これら企業がどうすれば革新性と生産性を高められるかについて検討している。

それによれば、アジアが従来の力強い成長軌道に戻る上で必要な内需を喚起するためには、急速に幅広く増加している都市中間層が大きな役割を果たすほか、域内の企業、とりわけ多くの労働者を抱える中小企業が体力を取り戻すことが重要とみられる。

ADBの李鐘和(Jong-wha Lee)チーフエコノミストは、アジア経済について、「主要先進国における景況見通しが必ずしも力強くないこともあり、1997～98年の危機の時のような外需による不況脱出は見込めない。むしろ、内需拡大に向けた経済構造の再調整を進めるなかで、中小企業の成長阻害要因を取り除くことにより、多くの人々の生計がかかっている中小企業を伸ばすことが重要だ」としている。

アジアにおいては、危機の影響により、ダイナミックで輸出主導型の企業の多くが事業縮小や減産、従業員解雇を余儀なくされている。中小企業の企業活動は国内向けである場合が多いことから、こうした影響は当初限定的なものだったが、金融機関の貸し渋りや需要の低迷に伴う悪影響が出始めており、レポートでも、東・東南アジア8カ国のうち7カ国の製造業で、2009年の第1四半期の雇用が前年同期比で約2～7%減少していることが明らかになっている。

これに対し、各国当局は財政出動による景気刺激策と金融緩和策で経済再建をめざしている。信用保証、補助金付の融資、財政による各種インセンティブといった直接的な企業支援策を取っている例もある。

KI2009では、中小企業を育成し生産性を向上させる上で公共政策が果たしうる役割は大きいとした上で、官民が協力し、資金提供をはじめとする分野での市場の失敗を是正すべきと指摘している。具体的には、中小企業の新技術導入や新規市場参入を手助けすることで、生産性が高まり、雇用確保につながるような政策である必要がある。また、国による技術や市場に関する情報サービスの提供、職業訓練、技術支援や、中小企業と大企業の連携強化などの後押しも有効な政策となろう。

各国が置かれている状況はそれぞれ異なるが、中小企業の成長を阻害している具体的要因を見極めるとともに、伝統的だが生産性の低い事業経営から近代的で生産性の高い事業経営への移行過程を分析し、真に効果的な公共政策を策定・実施できるかどうか課題となろう。

---

### お問い合わせ先

駐日代表事務所

広報官: 望月 章子

T: +81 3 3504-3441/3160

E-mail: [amochizuki@ADB.org](mailto:amochizuki@ADB.org)

ADBのニュースリリース(和文)は、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.adb.org/JRO/doc-news.asp>